

原油市場展望

2019年4月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

- ◆本資料は2019年4月1日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆照会先：藤山光雄（Tel: 03-6833-2453 Mail: fujiyama.mitsuo@jri.co.jp）

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。

原油価格見通し：振れを伴いながらも60ドル前後を中心とした展開に

◆現状：60ドル台乗せ

3月のWTI原油先物価格は、サウジアラビアによる積極的な減産姿勢や米国の原油・石油製品在庫の大幅な減少を背景に強含み。3月下旬には、約4ヵ月ぶりとなる60ドル台を回復。

その後は、世界的な景気減速懸念の強まりや、原油安を望む米トランプ大統領によるOPECの減産への牽制などが重石となる一方、ロシアによる減産の進展観測や、米国の石油リグ稼働数の減少が価格押し上げに作用し、60ドル前後で一進一退の展開に。

◆投機筋の買い越し幅は拡大

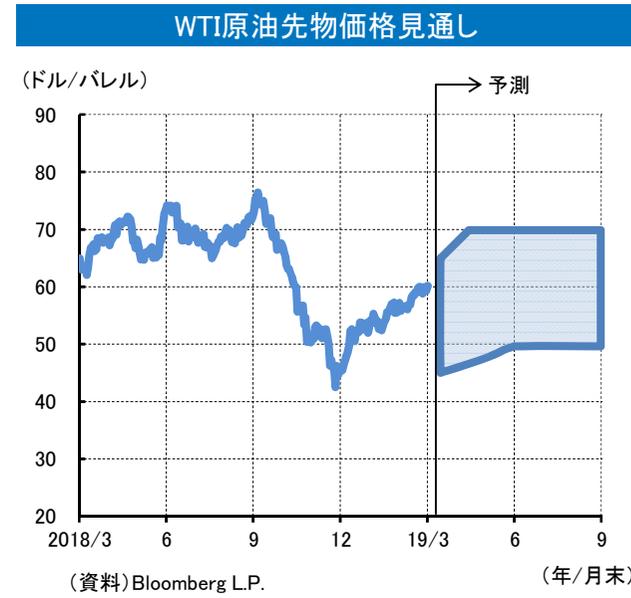
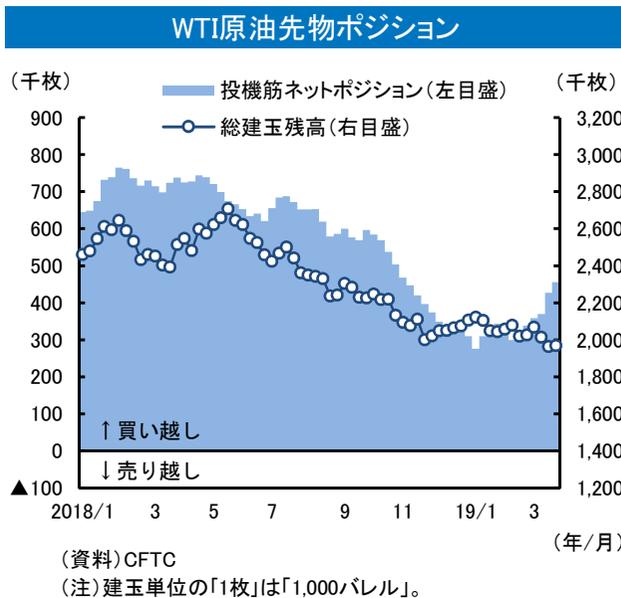
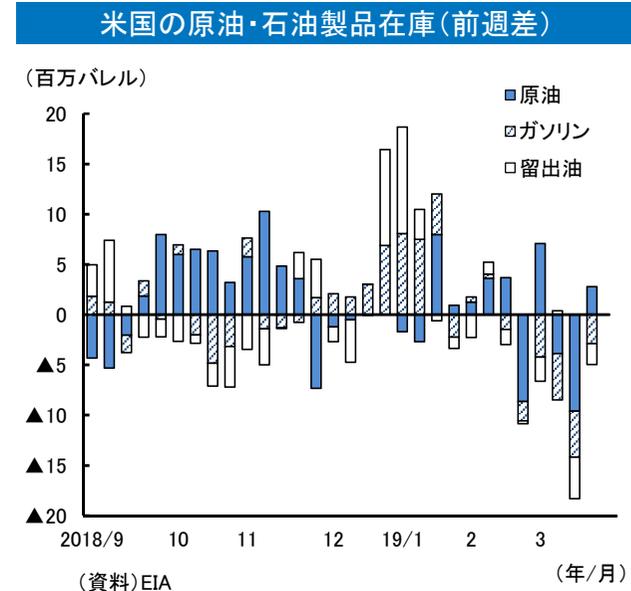
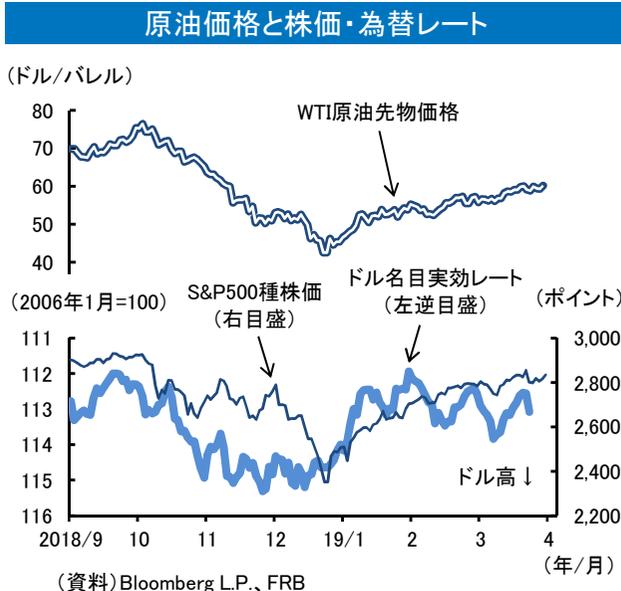
投機筋の原油先物の買い越し幅は、サウジアラビアを中心としたOPEC加盟国による積極的な減産姿勢が意識され、3月半ば以降、大きく拡大。

◆見通し：60ドル前後の推移に

先行き、サウジアラビアを中心としたOPEC加盟国・ロシアなどの減産や、地政学的リスクを抱えるイランやベネズエラ、リビアなどの産油量の減少が供給の抑制に作用し、原油価格を押し上げ。

一方、世界経済の減速懸念が重石となるほか、原油価格が70ドル近くまで上昇すると、米国シェールオイルの増産ペースが加速し、上値抑制要因に。

結果として、振れを伴いながらも60ドル前後を中心とした推移が続く見通し。



トピック：原油価格60ドルで、米国シェールオイルは増産持続

◆米国の石油リグ稼働数は再び増加へ

米国の石油リグ稼働数は、昨年末にかけての原油価格の急落を受け、11月半ば以降、減少傾向。もっとも、一時40ドル台前半まで下落した原油価格は、足許で60ドル前後まで持ち直しているため、先行き、石油リグ稼働数が一段と大きく減少する可能性は小。

実際、米国有数のシェールオイル生産地域を管内に抱える地区連銀の調査では、原油生産企業の油井掘削の採算水準は概ね50ドル台前半。原油価格が60ドル前後で安定すれば、石油リグ稼働数は再び増加に転じる公算が大。

◆貿易面でも米国原油の存在感が拡大

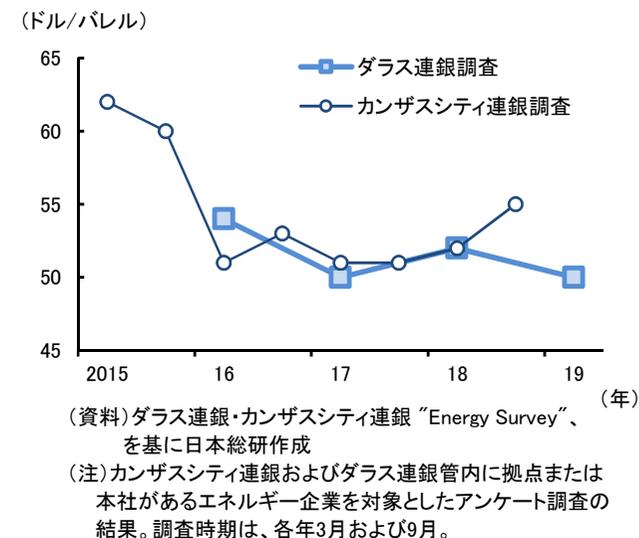
中期的にも、米国のシェールオイルは増産が続く見通し。IEA（国際エネルギー機関）が3月11日に公表した原油市場の中期見通しによると、原油価格が現行水準並みで推移した場合、米国のシェールオイル生産量は、2024年にかけて日量1,000万バレル近くまで拡大。

さらにIEAは、原油生産量の拡大とそれに伴うインフラの増強を受け、米国の原油・石油製品の輸出量が2023年にもロシアを上回り、世界最大の輸出国であるサウジアラビアに近づくと予想。生産量では既にロシアやサウジアラビアを上回る米国が、輸出量でも両国に並ぶことで、世界の貿易市場における米国の原油や石油製品の存在感が一段と増す格好に。

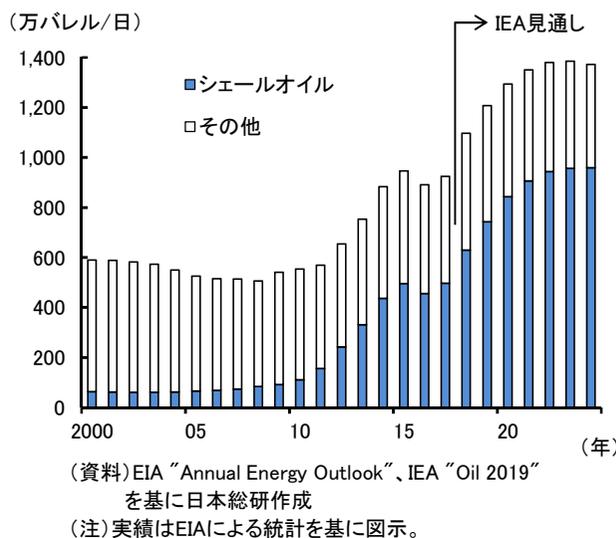
原油価格と米国の石油掘削設備（リグ）稼働数



米原油生産企業の油井掘削の採算水準 (回答企業平均)



IEAによる米国の原油生産量見通し



主要産油国の原油・石油製品の輸出量

